

検査技術科・薬剤科のスタッフです



医療技術局の検査技術科と薬剤科は、海部病院の1階にあり、それぞれ外来採血や血液検査、心電図検査、入院患者さんのお薬の準備やその説明が主な業務です。検査やお薬について疑問があれば、些細なことでもお声かけしていただければ嬉しいです。親切で丁寧な対応を心がけ日々の業務にあたっております。

## 県立病院基本理念

県民に支えられた病院として  
県民医療の最後の砦となる



## 目次

- 県立海部病院医師紹介 …… 1
- 寄附講座医師紹介 …… 1
- 「土曜救急」再開 …… 2
- 脳神経外科からのお知らせ …… 2
- 医療相談について …… 2
- 被災地支援を経験して …… 3



## ● 県立海部病院医師紹介 ●



坂東 弘康 院長  
内 科



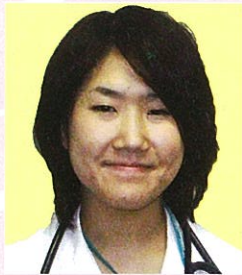
大田 憲一 副院長  
外 科



浦岡 秀行 整形外科部長  
整形外科



木下 英孝 内科医長  
内 科



阿部 あかね 医師  
内 科



和田 一馬 医師  
整形外科

## ● 寄附講座医師紹介 ●

〈総合診療医学分野〉



谷 憲治 教授



河野 光宏 講師



山口 治隆 助教



田畑 良 助教

〈地域産婦人科診療部〉



古本 博孝 教授



吉田 加奈子 助教



佐藤 美紀 助教

(H23.10月1日現在)



# 11月から「土曜救急」再開



当院は平成20年4月以降、土曜日の救急患者受入れを休止しておりましたが、県と徳島大学が連携して、11月1日より、寄附講座「地域脳神経外科診療部」が新たに開設されることにより、土曜日の救急患者受入れを再開し、24時間365日救急対応できる体制が整うこととなりました。

長期間にわたり、皆様にご心配、ご迷惑をおかけしましたが、今後も、「県民に支えられた病院として、県民医療の最後の砦となる」を基本理念として、引き続き診療体制の充実に努めてまいりますので今後ともよろしくお願ひします。

## 脳 神 経 外 科 からのお知らせ

10月から診療体制の充実を図るため、毎日(月曜日から金曜日)外来診療を実施しております。

### 医療相談について

当院では、本年度より、専任の医療ソーシャルワーカー（MSW）を新たに配置しております。

患者さんやその家族の方が安心して療養・生活できるよう、医療ソーシャルワーカーがサポートしますので、お気軽にご相談ください。



#### 【医療ソーシャルワーカーの役割】

現在、医療技術が高度化、専門化するなか患者、家族の身体のみを診るのではなく不安を取り除く心理的な関わりが重要視されつつあります。そのような病院等の保険医療の場において、「疾病を有する患者等が、地域や家庭において自立した生活を送ることが出来るよう、社会福祉の立場から患者の抱える経済的、心理的、社会的問題の解決、調整を援助し、社会復帰の促進を図る」ことが大きな役割として考えられています。

#### 【医療ソーシャルワーカーとして】 医療ソーシャルワーカー 野口 耕太

平成23年4月1日より、海部病院・地域支援室で医療ソーシャルワーカーとして勤務しておりますが、病院に来られる患者さんや家族の多くは、様々な不安や心配を抱えているのではないかと感じています。微力ではありますが、そんな方々に寄り添い、一緒に悩み考え、問題解決の一助になればと思っています。一人で抱え込まず、何でも相談してもらえ医療ソーシャルワーカーでありたいと考えていますので宜しくお願ひいたします。





# 被災地支援を経験して

内科医長 木下 英孝

平成4年から海部病院に2年間勤務して以来、木頭診療所、上那賀病院、上勝町診療所等を経て、本年4月から再び海部病院勤務となりました。

4月上旬には宮城県石巻市の被災地で医療救護支援に参加し、貴重な経験をさせていただきました。これまで私は、主に「へき地」と呼ばれる地域で医療に従事してきましたが、徳島県内の多くのへき地医療機関には、X線装置はもちろん、超音波装置（エコー）や内視鏡装置も配備されており、医療設備はかなり充実しています。被災地では、中学校の保健室を臨時診療室とし、検査機器や薬は限られており、とても十分な医療は提供できない環境でした。肺炎が疑われる人に対して、レントゲン撮影さえできません。車で40分ほど走ると石巻赤十字病院がありますが、多くの被災者は自動車も津波に流されて、交通手段を持っていません。重症患者は救急車で搬送できますが、それ以外の人に高次医療機関まで行ってもらうことは大変難しい状況でした。

そんな環境でしたが、狭い診療室で事務職員による受付、医師による診察、看護師による処置、薬剤師による調剤・服薬指導が、とてもスムーズに行われました。お互いに顔の見える距離でコミュニケーションをとり、職員全員で患者さんに対応しながら、「チーム医療」の原点を実感しました。

今回の経験で、いろいろなことを考えました。津波によって数万人の命が失われました。私たちと同じように生活していて、突然の大津波に流され、誰にも看取られることなく死んでいったのです。そして、いまだに発見されていない人がたくさんいます。その人たちの無念さを思うと心が痛みます。

私たちは今の生活に不満を持ちすぎているのでしょうか。被災された人たちのことを考えれば、贅沢なことは言えません。日々の生活に感謝しながら過ごしていきたいものです。

私たちも被災者になる可能性があります。あのような大津波が来たら、徳島県の沿岸部も同様に壊滅状態に陥るでしょう。甚大な物的被害は避けられません。私たちにできることは、まず第一に自らの命を守ることです。安全な避難場所への経路を確認しておきましょう。そして、心と時間に余裕があれば、助け合うことです。声を掛け合いながら、少しでも多くの命が救われるように、「自助・互助・公助」の精神で、人的被害を最小限にとどめられるよう、地域で防災に取り組んでいきましょう。

## 当院の被災地支援状況

派遣期間

木下 英孝 内科医長	: 4/ 6 (水) ~4/10 (日)
阿部 あかね 医師	: 4/27 (水) ~5/ 1 (日)
野田 照男 主任 (事務)	: 4/ 9 (土) ~4/13 (水)
高島 宏輔 主任 (放射線技師)	: 4/19 (火) ~4/25 (月)
井口 俊介 主任主事 (理学療法士)	: 5/15 (日) ~5/19 (木)

発行日：平成23年10月15日

発行：徳島県立海部病院広報委員会 〒775-0006 徳島県海部郡牟岐町大字中村字本村75-1

T E L : 0884-72-1166 FAX : 0884-72-3521

H P : <http://www.tph.gr.jp/~kaifu/1%20top%20page/index.html>